

どんぐり村の こみ・すく通信

令和8年7月10日発行

令和8年度 第8号

更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

さらべつふるさと学

講師が更別の現状を語る

「さらべつふるさと学」とは、更別村の子どもたちが、地域の自然・歴史・文化・産業・人々との関わりを通して、ふるさとへの理解や愛着を深めることを目的とした地域学習（ふるさと教育）の取り組みです。ふるさと教育は数年前から行ってきましたが、昨年度から小中学校の9年間を通して系統的に学べるよう体系化しました。

今年度、中央中3年生は、総合的な学習の時間に40時間予定していて、テーマは「自分が住んでいる地域の未来を考えることを通して、自分の将来について考える」。12月の村議会訪問まで様々な方を講師にお招きし、多くのことを学んでいきます。

《村長 西山氏「更別村を知る」》



更別村はカロリーベースで食料自給率が73.48%。世界に誇れる日本一の農業村。

《企画政策課 八木氏「村の政策を知る」》



今のままでは大規模農業の維持が困難なため、効率的なスマート農業の推進が必要。

《産業課 中村氏「村の課題を知る」》



役場が住民の生活にどれだけ関わっているか、架空の人の一日の生活で考えよう。

《農業 道見氏「村の農業を知る」》



現在の農業の課題は、害獣被害、人手不足、廃棄野菜等、たくさんあるのが現状です。

7月以降も続々と講師が来校予定です。

いつもありがとうございます

6月下旬、給食センター内洗浄室をはじめとする複数箇所で空調設備が一時使用できなくなりました。調理員の皆さんは厳しい環境の中での作業を余儀なくされましたが、「子どもたちの給食を止めない」との強い責任感のもと、暑さに耐えながら調理業務を続けてくれました。このことを知った更別小6年生は、調理員の皆さんが熱中症や健康への影響が心配される中でも、自分たちのために給食を作り続けてくれていることに感謝の気持ちを伝えたいと話し合い寄せ書きを贈りました。

